市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-2	交流オアシス整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	都市みらい部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光客と市民との交流・憩いの場を創出するため、壺屋地区（桜坂、やちむん通り沿）に、公有地及び道路残地等を活用した小広場・オープンスペース（交流スペース）の整備を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,000	9,500	－		
	(b) 予算現額	25,000	33,000	－		
	(c) 増減額 (b-a)	－	23,500	－	0	0
	(d) 繰越額	－	－	13,947		
	A. 計 (b+d)	25,000	33,000	13,947	0	0
B. 執行済額		24,720	19,023	13,494		
うち交付金充当額		19,776	15,218	10,795		
次年度繰越額		－	13,947	－		
執行率（%）（B/A）		98.9%	57.6%	96.8%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：
・事業の進捗を図るため事業を前倒しで実施することから、委託料を3,000千円、工事請負費を20,500千円、計23,500千円を増額した。
・整備工事においては、隣地との境界についてプライバシーを考慮して欲しい等の要望があり、その調整に不測の日数を要したことから、年度内の完了が困難になったため13,947千円を繰り越した。

活動目標（指標）及び達成状況

H30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
交流スペースの設置工事：2箇所（設置箇所：壺屋）	目　標	（　1箇所　）	（　2箇所　）	（　　）	（　　）
	実　績	1箇所	2箇所		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：交流スペースを平成30年度に1箇所（壺屋：桜坂）、令和元年度に1箇所（壺屋：やちむん通り）を整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（　年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（　年度）
本事業により整備した小広場（交流スペース）について、観光客へのアンケート調査を実施し、小広場を交流・憩いの場として活用できたか（80%以上）を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目　標	（　　）	（　8割以上　）	（　8割以上　）	（　　）	（　　）
	実　績		9割	9割		
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：利用者の満足度については、交流スペース利用者に対し、設置箇所にて聞き取りアンケートによる満足度調査を実施し、「良かった」との回答を9割以上得られ、成果目標を達成した。

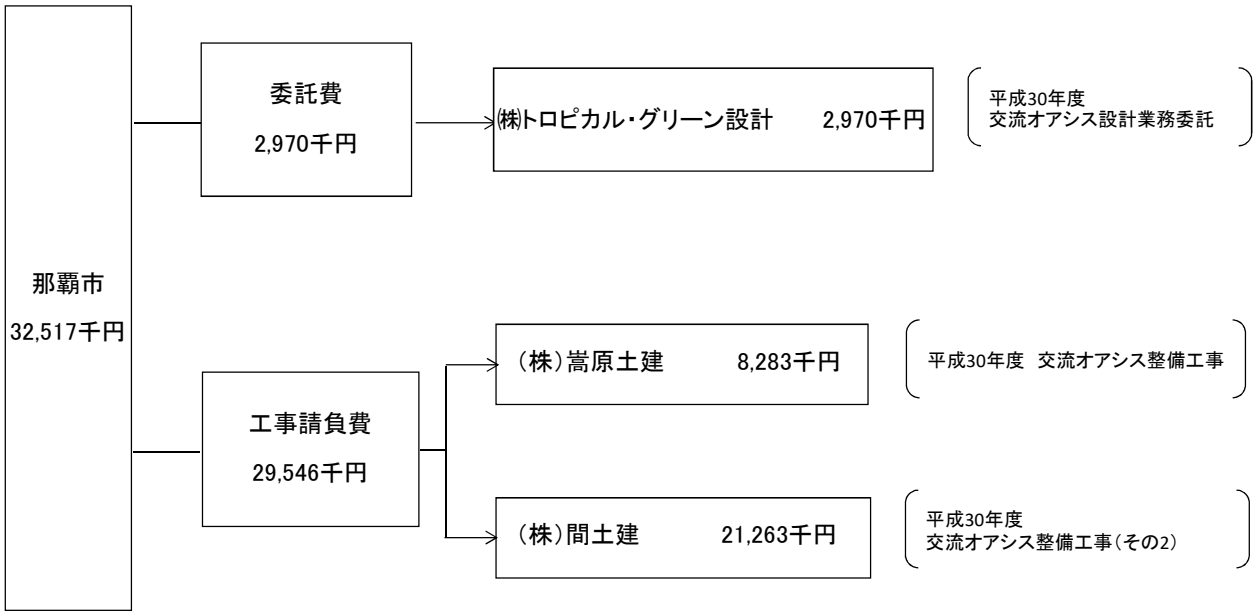
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客が多く訪れる壺屋やちむん通り内や、やちむん通りと国際通りを繋ぐ桜坂に交流スペースを設置できたため、成果目標を達成できたと考えられる。また、当該箇所近辺は休憩スペースが少ないことや、以前と比較して景観や環境が改善したことも目標値達成の要因と考えられる。 ・やちむん市等のイベントで積極的に活用できれば、さらに交流が活発になるという意見があった。	・各種イベントや地域活動を活発化させることにより、観光客と地域住民との交流や憩いの場としての活用を図る。

今後の取り組み方針

・整備完了した箇所について、市のホームページやリーフレット等の案内により利用促進を図り、観光客と市民との交流及び憩いの場づくりが確保できるように努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
32,517	32,517	26,013	6,504	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料・工事請負費の執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-3	バス停上屋整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ 人にやさしい交通手段の確保
担当部課名	都市みらい部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光客がバス停で強烈な日差しや風雨を避け快適に利用できるようにするため、観光客が多く利用する大型商業施設付近のバス停上屋（おもろまち：2基）を整備する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H28年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30,000	24,028	－		
	(b) 予算現額	30,000	32,028	－		
	(c) 増減額 (b-a)	－	8,000	－	0	0
	(d) 繰越額	－	－	19,298		
	A. 計 (b+d)	30,000	32,028	19,298	0	0
B. 執行済額		30,000	12,730	19,125		
うち交付金充当額		24,000	10,184	15,300		
次年度繰越額		－	19,298	0		
執行率（%）（B/A）		100.0%	39.7%	99.1%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		・労務単価及び資材費高騰により事業費が不足したため、工事請負費を8.000千円増額した。 ・整備工事について応札者がなく不調となり、その結果を踏まえた設計変更に不測の日数を要し、年度内の完了が困難となったことから、19,298千円を繰り越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
バス停上屋の設置工事 ：2基（設置箇所：おもろまち）	目　標	（　－　）	（　2基　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	2基		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	整備工事について、令和元年8月にバス停上屋（おもろまち：2基）を設置することができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（　年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（　年度）
本事業により、整備を行ったバス停上屋について、観光客へのアンケート調査等を実施し、快適にバスを待てるようになったか（80%以上）を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目　標	（　　）	（　－　）	（　8割以上　）	（　　）	（　　）
	実　績		－	9割		
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	利用者の満足度については、バス停利用者に対し、設置箇所にて聞き取りアンケートによる満足度調査を実施し、「良かった」との回答を9割以上得られ、成果目標を達成した。					

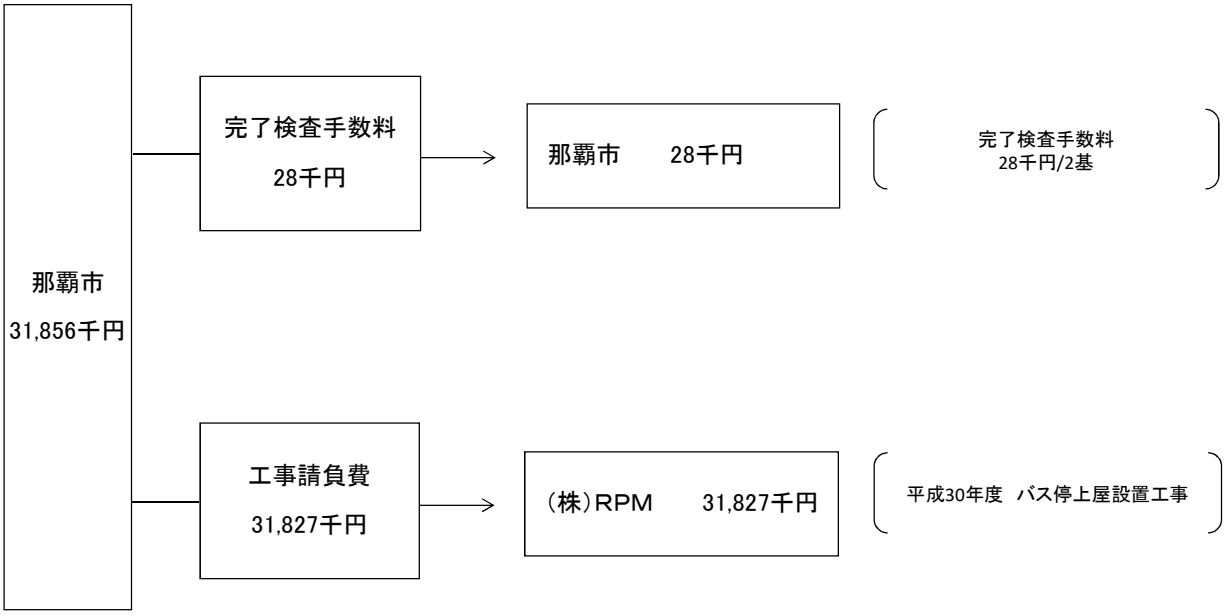
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客が多く利用する大型商業施設付近のバス停上屋を整備したことにより、日差しや雨風を防ぐことができたため、成果目標を達成できたと考えられる。 ・ベンチを設置してほしいとの意見も得られた。	・当該箇所の歩道埋設物の条件により、ベンチの設置は難しいと考えている。現在は近隣店舗敷地内に設置されているベンチを利用している人がみられる。

今後の取り組み方針

・ベンチの設置は歩道条件より設置が難しいことから、近隣施設の協力を仰ぐことが必要と考えている。
・令和2年度は、同地域において新たに2基のバス停上屋を整備する予定である。引き続き観光客が快適に利用できるよう整備を進めて行く。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,856	31,856	25,484	6,372	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負費の執行にあたっては、入札不調による随意契約で業者を選定しており、発注時期や設計内容の検討が必要であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-4	歴史散歩道整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	都市みらい部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

観光客等が那覇の歴史に感じて歩くことができるようにするため、歴史散歩道（道標、カラー・石張舗装等）を整備する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度(繰越)	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	－	2,000	－		
	(b) 予算現額	－	108,000	－		
	(c) 増減額 (b-a)	－	106,000	－	0	0
	(d) 繰越額	58,725	－	69,999		
	A. 計 (b+d)	58,725	108,000	69,999	0	0
B. 執行済額		58,688	38,001	69,949		
うち交付金充当額		46,951	30,400	55,960		
次年度繰越額		－	69,999	－		
執行率（%）（B/A）		99.9%	35.2%	99.9%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：
・事業の進捗を図るため事業を前倒しで実施することから、工事請負費を106,000千円増額した。
・整備工事については、地域住民の要望に対して調整に時間を要したことや、隣接する文化財の現存保存のために隣接地に影響を及ぼさない施工方法の調整に不測の日数を要したことから、年度内の完了が困難になったため、69,999千円を繰り越した。

活動目標（指標）及び達成状況

H30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
歴史散歩道の整備：道標設置工事3基（整備路線：赤田寒川線） 道路整備工事5路線（整備路線：上間6号外4路線）	目　標	（　－　）	（道標：3基 道路整備：上間6号外4路線）	（　）	（　）
	実　績	－	（道標：3基 道路整備：上間6号外4路線）		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：歴史的文化財が残る首里地区に道標3基を設置し、同じく史跡が多く残る上間識名地区の5路線を整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（　年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（　年度）
本事業により、整備を行った歴史散歩道について、観光客へのアンケート調査を実施し、歴史を感じて歩くことができたか（80%以上）を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目　標	（　）	（　－　）	（8割以上）	（　）	（　）
	実　績		－	9割		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：利用者の満足度については、歴史散歩道の利用者に対し、設置箇所にて聞き取りアンケートによる満足度調査を実施し、「良かった」との回答を9割以上得られ、成果目標を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・カラー舗装や石張舗装の整備によって、多くの方が昔の石畳の風情を感じることができるようになったため、目標値を達成できたと考えられる。 ・道標の設置により、現存する石畳や史跡への誘導がスムーズになったことも目標値達成の要因と考えられる。	・各史跡ごとに案内・説明板等が整備されていない、もう少しきれいに史跡を保ってほしい等の意見も得られたので、関係部署と連携や地域の方々（自治会等）との意見交換が必要と考えている。

今後の取り組み方針

・地域の方々（自治会等）との意見交換やアンケート結果を踏まえ、整備内容の充実を図ることで、歴史散歩道の整備を推進し、観光客がより一層那覇の歴史に触れ、楽しく歩けるように努める。
・カラー舗装や石張舗装の整備と同様に、案内・説明板等の設置は那覇の歴史に触れるために必要なので、関係部署と連携し事業満足度の向上に努める。
・整備完了した路線については、ホームページ等による案内を行い、利用促進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
107,950	107,950	86,360	21,590	0

那覇市 107,950千円 → 工事請負費 107,950千円

- ㈲オキケン開発 39,481千円 （平成30年度 歴史散歩道整備工事（識名地内外3箇所））
- ㈱三永開発 6,912千円 （平成30年度 歴史散歩道整備工事（赤田寒川線））
- ㈱北盛建設 61,557千円 （平成30年度 歴史散歩道整備工事（上間地内））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負費の執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-26	亜熱帯庭園都市の公園美化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(エ) 観光客受入体制の整備
担当部課名	都市みらい部　公園管理課	事業実施（予定）年度	平成24年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

観光客が快適に公園利用することで沖縄観光のサービス向上につながるように、観光地周辺における旭ヶ丘公園トイレのバリアフリー化や和式便器から洋式便器への整備、漫湖公園内植栽樹木の剪定による樹幹形成や伐採を行い、快適な公園環境の創出やイメージアップを図る。

効果発現年度　■当年度　□後年度（令和　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	39,700	52,000			
	(b) 予算現額	39,700	52,000			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	13,825		
	A. 計 (b+d)	39,700	52,000	13,825	0	0
B. 執行済額		38,527	34,115	13,825		
うち交付金充当額		30,821	27,292	11,060		
次年度繰越額		0	13,825	0		
執行率（%）（B/A）		97.0%	65.6%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明
・旭ヶ丘公園便所整備工事は入札不調のため随意契約で発注した。工期延長し一部繰越して完成した。
・4,060千円は不用額

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
・便所整備工事の実施（実施場所：旭ヶ丘公園） ・植栽剪定業務の実施（実施場所：漫湖公園）	目　標	便所整備1棟、植栽剪定業務1公園実施	便所整備1棟、植栽剪定業務1公園実施	（　）	（　）
	実　績	便所整備1棟、植栽剪定業務1公園実施	便所整備1棟、植栽剪定業務1公園実施		
満足度のアンケート調査実施	目　標	（　）	（満足度80%以上）	（　）	（　）
	実　績		満足度71%		

達成状況説明
・平成30年度に、旭ヶ丘公園便所整備工事（建築、設備）を実施した。
・平成30年度に、漫湖公園樹木剪定業務を実施した。
・平成30年度に、満足度の聞き取りアンケート調査を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H29成果目標（指標）		基準値（年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（年度）
・便所整備工事73%完了（予定箇所総数15箇所、平成30年度までの整備累計11箇所） ・植栽剪定72%完了（予定箇所総数11箇所、平成30年度までの整備累計8箇所）	目　標	（　）	（便所整備66%完了、植栽剪定63%完了）	（便所整備73%完了、植栽剪定72%完了）	（　）	（　）
	実　績		便所整備66%完了、植栽剪定63%完了	便所整備73%完了、植栽剪定72%完了		
【R1成果目標】 ①トイレが整備されたことにより利便性が確保されたか、②観光地として、相応しい公園景観であると感じるか（満足度80%以上）を含め、観光客等へのアンケート調査により、本事業の在り方を検証する。	目　標	（　）	（　）	（　）	（満足度80%以上）	（　）
	実　績				満足度71%	

進捗状況説明
・旭ヶ丘公園便所整備工事が繰越して完成した。便所整備が73%完了した。（予定箇所総数15箇所、平成30年度までの整備累計11箇所）
・漫湖公園の植栽剪定業務が完了できた。植栽剪定72%完了（予定箇所総数11箇所、平成30年度までの整備累計8箇所）

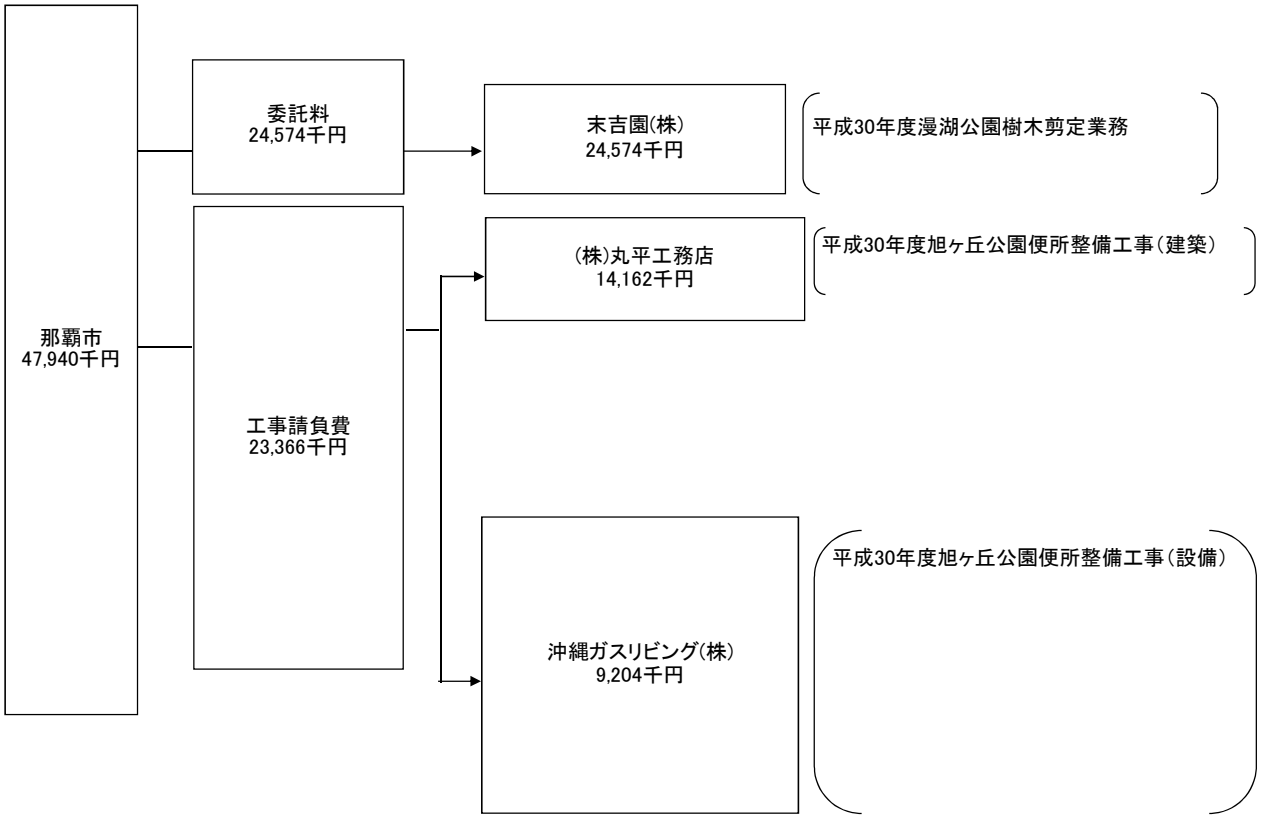
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・設計施工を同一年度に実施するのは適正工期を確保できない恐れがあるほか、技術者不足による入札辞退などが発生している。 ・各公園を巡回して維持管理を行っているため、利用者満足度の測定を行うことが困難である。	・設計業務を先行して行い工事施工を設計年度以降に行うことで適正工期の確保を行えるように取り組む。 ・現場代理人等の複数工事兼任を認めることで施工業者の技術者不足による入札辞退を減少させることができないか検討する。 ・公園利用者の満足度を調査することについて、アンケート等を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・適正工期の確保に向けて工事施工年度内に完了できるよう年度前半での工事発注を目指す。
・現場代理人及び技術者を確保し、入札辞退がでないよう同規模工事の発注予定がある他部署と発注時期を調整しながら執行する。
・観光地周辺公園の美化と緑化、トイレ等整備におけるアンケート等の調査を行い、利用者の満足度や意見を反映し整備内容の充実を図りたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
47,940	47,940	38,352	9,588	



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、本市で選定した業者を一般競争入札により実施し、及び工事は一般競争入札と入札不調による随意契約を実施したが、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費目、使途については、事業目的の観点から、必要なものなのかについては額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-35	第一牧志公設市場再整備推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(8)－イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興
担当部課名	経済観光部　なはまち振興課	事業実施（予定）年度	平成26年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	那覇市の中心市街地において、第一牧志公設市場を中心としたマチグヮーが観光地として魅力を高める拠点となっている。同市場を再整備することにより観光振興に寄与し、観光客の誘客を図る。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（令和4年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	233,294	327,359	－		
	(b) 予算現額	178,962	297,358	－		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 54,332	▲ 30,001	－	0	0
	(d) 繰越額			162,078		
	A. 計 (b+d)	178,962	297,358	162,078	0	0
B. 執行済額		178,678	131,040	162,078		
うち交付金充当額		142,942	104,832	129,662		
次年度繰越額			162,078			
執行率（%）(B/A)		99.8%	44.1%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：設計工事等委託等の不用となる委託料3,862千円及び市場移転補償の不用となる補償金10,653千円を2月補正で減額した。また、仮設市場については、市場事業者が設置する機器の選定及び内装工事の調整に不測の日数を要し、年度内の完成が困難となったため、賃借料の18,450千円を2月補正で減額し、合わせて委託料及び補償金162,078千円を平成31年度に繰越した。

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
施設本体の実施設計、仮設店舗の建設工事、補償契約業務、商業支援業務等の実施	目標	（施設本体基本設計、仮設店舗設計、商業支援業務の実施）	（施設本体の実施設計、仮設店舗の建設工事、補償契約業務、商業支援業務等の実施）	（　）	（　）
	実績	施設本体基本設計、仮設店舗設計、商業支援業務の完了	施設本体の実施設計、仮設店舗の建設工事、補償契約業務、商業支援業務等の完了		
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				

達成状況説明：平成29年度に施設本体基本設計、仮設店舗設計及び商業支援業務（29年度分）を完了し、平成30年度に施設本体の実施設計、仮設店舗の建設工事、補償契約業務、商業支援業務等（30年度分）を完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（R4年度）
施設本体の実施設計の完了	目標	（　）	（　）	（設計完了）	（　）	（　）
	実績			完了		
仮設店舗の建設工事の完了	目標	（　）	（　）	（建設完了）	（　）	（　）
	実績			完了		
補償契約業務の完了	目標	（　）	（　）	（業務完了）	（　）	（　）
	実績			完了		
商業支援業務等の完了	目標	（　）	（　）	（業務完了）	（　）	（　）
	実績			完了		
【R4成果目標】年間来訪者数目標	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（256万人）
	実績					

進捗状況説明：
- 施設本体の実施設計は令和元年6月で完了
- 仮設店舗の建設工事は、令和元年6月に完了し、令和元年7月より共用開始
- 補償契約業務は、令和元年6月で完了
- 商業支援業務等は令和元年8月で完了

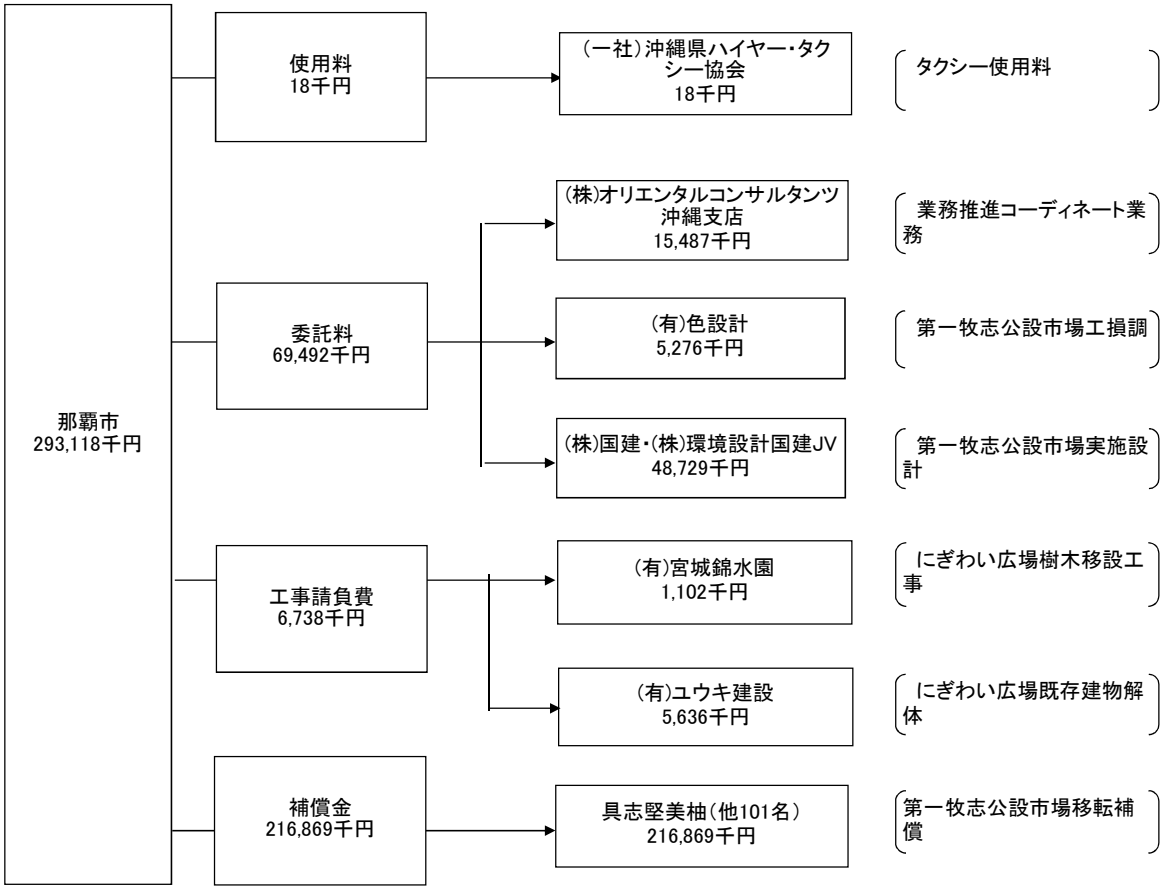
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	各事業とも繰越後は概ね計画通りに完了したが、市場事業者等の状況や事情が計画の進捗に影響を及ぼす場合がある。	市場事業者や市場周囲店舗事業者の状況や課題等の情報収集を図り、事業計画に反映する。

今後の取り組み方針

誘客促進および市場内の回遊性向上に向けた商業支援を実施するにあたり、市場事業者の意向を反映させるため、市場事業者との意見交換会を3～4回開催する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
293,117	293,118	234,494	58,624	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は、プロポーザル方式及び一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 - 36	貸切バス乗降場・待機場整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ 観光客受入体制の整備
担当部課名	経済観光部　観光課	事業実施（予定）年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	貸切バスの国際通り周辺での路上駐車による交通混雑の緩和を図る。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（R2年度以降）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度	R3年度
予算の状況	(a) 当初予算額	43,528	0			
	(b) 予算現額	43,528	0			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	―	43,528			
	A. 計 (b+d)	43,528	43,528	0	0	0
B. 執行済額		0	34,077			
うち交付金充当額		0	27,261			
次年度繰越額		43,528	0			
執行率（%）(B/A)		0.0%	78.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：整備予定地である県有地の無償貸与に関し、沖縄県との合意書締結の調整に不測の日数を要し、大型バスが乗り入れるため、当初想定していなかったアスファルト舗装厚の算出等の基本設計業務に係る手続き等により、年度内の事業完了が困難となったため繰越を行った。
不用額の理由については、当初想定していた工事請負費について、仕様・数量の変更等による予定価格の減額と、落札差額（約90.5%）による入札執行残である。

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
乗降場・待機場の整備 ①舗装工事 ②機械設備工事	目　標	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の実施	（　）	（　）	（　）
	実　績	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の完了			

達成状況説明：舗装工事前に実施設計業務を行う必要が生じたため、工事費を流用し委託料を確保して実施設計を行った。
実施設計の結果、地盤改良が必要となり、舗装工事費が増となったことから、残額では機械設置費用をまかなえず、機械設置については、市単費を活用。
実施設計（土質調査・磁気探査）、舗装工事（地盤改良）を完了。

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（　年度）	H30年度	R1年度	R2年度	目標値（R2年度）
県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バスの一日平均流入台数：2割減	目　標	（　）	（2割減）	（　）	（　）	（2割減）
	実　績		未計測			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：整備地である県有地の無償貸与に関し、沖縄県との合意書締結の調整に日数を要し、当初想定していなかったアスファルト舗装厚の算出等の設計業務に係る手続きや、実施設計の結果により地盤が軟弱であることが判明したため、地盤改良の追加、磁気探査の追加、工事の入札不調等が重なったことにより不測の日数を要したため、供用開始が令和2年3月までずれ込んだ。
供用開始したものの、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の観光客が激減し、貸切バスの利用自体が無くなっている状況のため、台数計測ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。

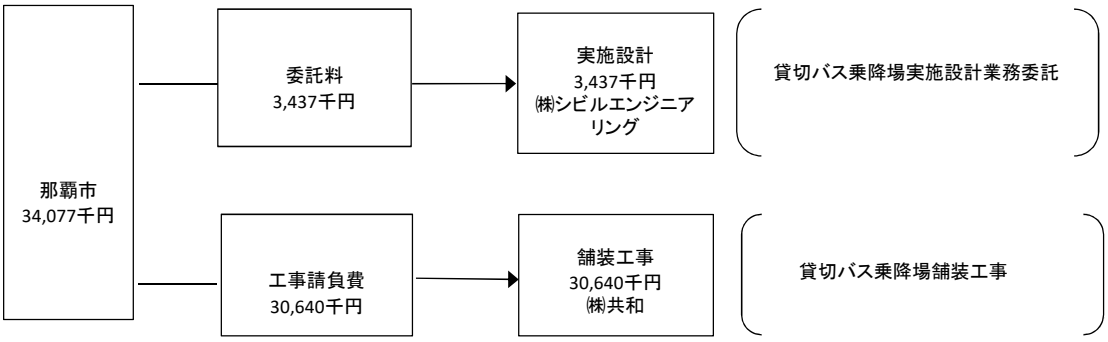
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県有地の無償貸与に関し、沖縄県との合意書締結の調整に不測の日数を要したこと。 ・当初想定していなかったアスファルト舗装厚の算出等の設計業務を舗装工事の前に行う必要が生じたこと。 ・実施設計の結果、地盤が軟弱であることが判明し、地盤改良工事や磁気探査を追加することになったこと。 ・工事の入札不調により不測の日数を要したため、供用開始が令和2年3月までずれ込んだ。 ・供用開始したものの、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の観光客激減にともない、貸切バスの利用も激減した。	今後、新型コロナウイルスの感染の状況が終息した後、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。

今後の取り組み方針

新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
38,176	34,077	27,261	6,816	4,099



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実施設計及び舗装工事の業者選定は、制限付き一般競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、約750万円の不用額が発生したが、当初予定していなかった委託や工事が追加になったことにより、見込んでいた機械設置の費用が賄えなかったことから、しっかりとした積算が必要だったと思われる。 ○費目、使途については、委託及び工事担当部署において、必要な検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 - 37	物語性のあるランドマーク創造事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	経済観光部　観光課	事業実施（予定）年度	平成29～平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	平成29年度新規事業「物語性のあるランドマーク創造事業」にて構築した「ランドマーク戦略プラン」を展開し、プランで設定したストーリー・物語を観光客への認知度の向上を図る。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（ R元・2年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,940	5,000	0		
	(b) 予算現額	5,940	5,000	0		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	0	5,000		
	A. 計 (b+d)	5,940	5,000	5,000	0	0
B. 執行済額		5,643	0	4,750		
うち交付金充当額		4,514	0	3,800		
次年度繰越額		0	5,000	0		
執行率（%）（B/A）		95.0%	0.0%	95.0%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：H30.12月末交付決定から公募・事業者選定・広報展開するなかでメディア等への露出も含め、H30年度内での事業完了が困難なため、H31年度に繰り越した。

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
文献、ヒアリング調査等の実施	目　標	（文献、ヒアリング調査等の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	文献、ヒアリング調査等の実施			
県内メディア等を活用して、ストーリー及びphotogenicポイントなどの周辺情報を発信し、認知度を高める。	目　標	（　）	（県内メディアの活用）	（　）	（　）
	実　績		県内メディアの活用		
公式SNS（Instagramなど）を開設し、H29年度に撮り貯めた素材を活用し、ストーリーや周辺のより深い、ユニークな情報を発信し那覇ファンを造成する。	目　標	（　）	（公式SNSの開設）	（　）	（　）
	実　績		公式SNSの開設		

達成状況説明：H29年度に策定した「ランドマーク戦略プラン」に基づき県内各メディアへアプローチ、テレビやWEB等のメディアを通して認知度向上を図った。また、公式SNSを開設し那覇ファンの造成を図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H29成果目標（指標）		基準値（年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（R2年度）
本市の観光魅力向上案の作成	目　標	（　）	（本市の観光魅力向上案の作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績		本市の観光魅力向上案の作成			
県内メディア等を活用しての情報発信	目　標			（メディア等での情報発信）		
	実　績			情報発信完了		
SNSでの発信完了	目　標	（　）	（　）	（SNSでの情報発信）	（　）	（　）
	実　績			情報発信完了		
（R1年度成果目標）PRサイトへアクセスした人のうち、拡散（いいね、リツイート等）した人の割合8%以上	目　標	（　）	（　）	（　）	（8%以上）	（　）
	実　績				13.2%	
（R1年度成果目標）本事業について、H29年度に開設したPRサイトにアクセスした人へアンケート調査を実施し、訪問したい（80%以上）を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目　標	（　）	（　）	（　）	（80%以上）	（80%以上）
	実　績				アンケート未実施	

進捗状況説明：県内テレビ局の情報番組での情報発信や、那覇市観光協会HPのPRサイト等の各種Web媒体を活用し、情報を発信した。また、InstagramとFacebookで公式SNSアカウントを開設し、H29年度に撮り貯めた写真を活用しながら情報を発信した。アンケート調査は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、正確な調査結果が得られることは難しいと考えたことから令和元年度は実施せず、コロナ禍収束後の令和2年度に実施することを予定している。

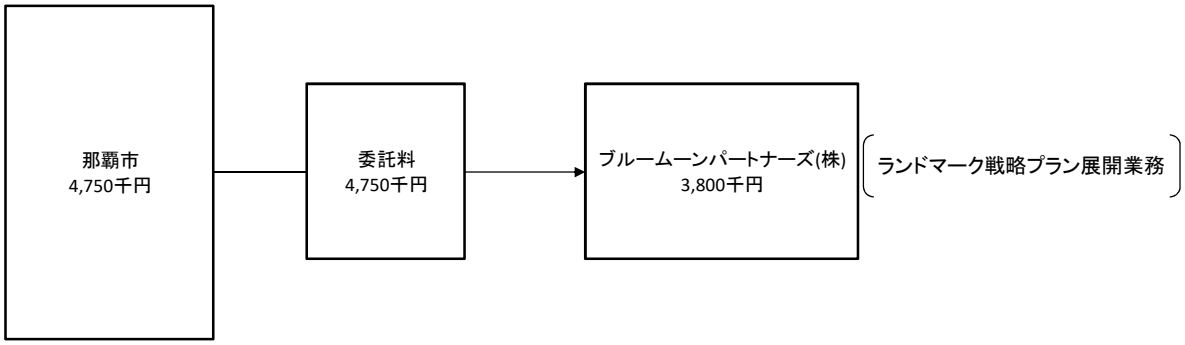
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当事業は予算を掛けての事業展開はH31年で終了。今後は開設した公式SNSを活用して予算を掛けない形で引く続き旬な情報等も含め情報発信していく必要がある。	・職員が公式SNSを活用して、引き続き本市の魅力発信を行っていくことになるが、人気のあるSNS等を参考にするなどして、閲覧者が増えるような内容にしていく。

今後の取り組み方針

・引き続き公式SNSを活用して、沖縄に来る前段階で、那覇の魅力に触れることにより潜在的な那覇ファンを増やせるような、来訪の動機付けとなるように本市の魅力発信を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,750	4,750	3,800	950	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託契約の相手方については、プロポーザル審査及び地方自治法施行令等の関係法令及び手続に基づき決定しており、妥当であったと考えている。 ○業者の見積もりをもとに積算したので予算規模は適切であったと考える。 ○実績報告関係書類により、真に必要なものに限定されていることを最終確認している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-3	外国人漁業研修生受入推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
担当部課名	経済観光部　商工農水課	事業実施（予定）年度	平成26～33年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（6）

事業内容

水産業の振興に向けて、マグロ漁船数の維持確保のため、市内漁業協同組合等が行う外国人漁業研修生に対する日本語学習及び日本の生活習慣・沖縄の文化・気候の学習、漁労・基礎学習(まぐろ延縄漁業)、交通安全指導等の研修に対し、支援を行い国際交流による技術移転を図り、漁業の担い手・人材の確保に繋げる。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	845	1,953	0		
	(b) 予算現額	845	851	0		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,102	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	851		
	A. 計 (b+d)	845	851	851	0	0
B. 執行済額		845	0	851		
うち交付金充当額		676	0	680		
次年度繰越額		0	851			
執行率（%）(B/A)		100.0%	0.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明　外国人技能実習制度の改正に伴い、入国管理局等の認定が遅延し、実習生の入国時期が遅れたため、事業の年度内実施が困難となったことから、予算を繰越した。

活動目標（指標）及び達成状況

H30活動目標（指標）		達成状況 H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
漁業関係団体への支援	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
外国人研修生受入：20名	目　標	（　0名　）	（　20名　）	（　　）	（　　）
	実　績	0名	13名		

達成状況説明

インドネシア研修生受入事務組合が行う外国人研修生に対する以下の研修に対し支援を実施した。研修生の人数は目標を下回る結果となった。
【研修期間】 平成31年3月12日～4月8日
【研修内容】 日本語学習及び日本の生活習慣・沖縄の文化・気候の学習、漁労・基礎学習(まぐろ延縄漁業)、交通安全指導等

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（　年度）	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	目標値（R3年度）
外国人研修生受入	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
【参考指標】マグロ漁の操業漁船の確保・維持：47隻	目　標	（　　）	（　0隻　）	（　47隻　）	（　　）	（　50隻　）
	実　績		0隻	47隻		

進捗状況説明

那覇地区漁業協同組合及び沖縄県近海鮪漁業協同組合の所有隻数合計で、マグロ漁の操業漁船47隻を確保することが出来、目標を達成した。

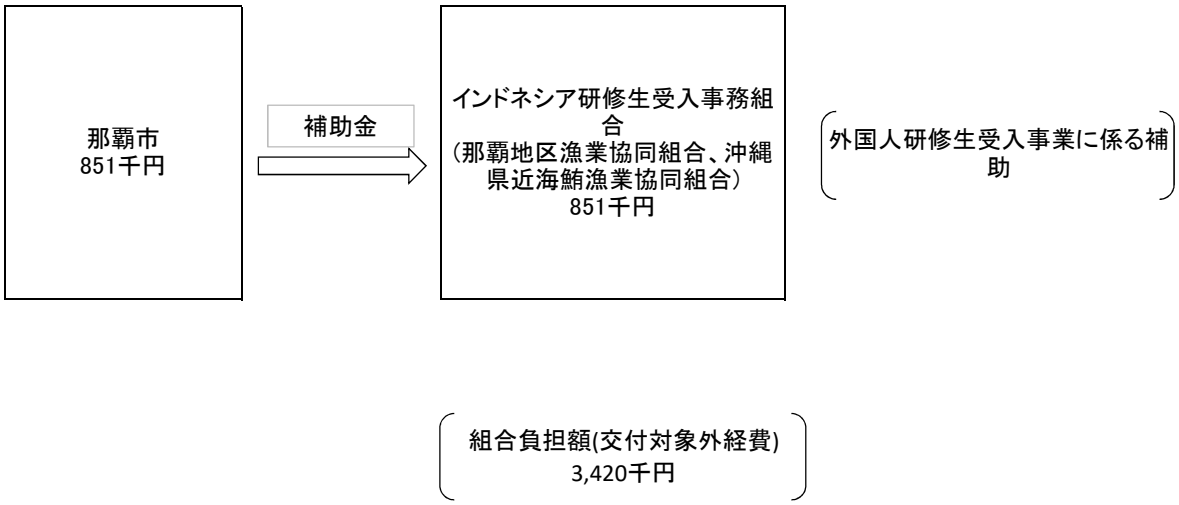
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	【マグロ漁の操業漁船の確保・維持】 ・研修制度の充実、漁業者福利厚生施設整備が求められている。 ・研修生に対し船主が支払う報酬・手当額が上昇しており、漁業経営が厳しくなることを理由に研修生受入を断る事例がある。	【マグロ漁の操業漁船の確保・維持】 ・研修制度の充実、漁業者福利厚生施設整備の検討を行う。 ・漁業関係の設備投資や経営資金の低利融資等に関する情報提供、実施団体と船主の負担軽減に向けた検討を行い、研修生を受け入れやすい仕組みづくりを検討する。

今後の取り組み方針

・研修制度の充実、漁業者福利厚生施設整備の検討を進め、本市水産業の担い手の育成と操業隻数の確保に努めていく。
・実施団体に対し、船主負担を低減し研修生受入を着実に実現できるよう事業内容や負担割合等含め検討し、利用しやすい補助制度となるよう調整を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,271	851	680	171	3,420



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○那覇市外国人技能実習生受入事業補助金交付要綱に基づき選定しており、妥当であると考える。 ○執行率が100%であるため、適切な規模であったと考える。 ○受益者であるインドネシア研修生受入事務組合が総事業費の約8割を負担しており、受益者負担が大きい状況であるため、本市の補助額の拡充に向け取り組む。 ○費用・使途については清算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-14	学校施設老朽化抑制事業（塩害防止・長寿命化）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	生涯学習部　施設課	事業実施（予定）年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

老朽化した学校校舎等において、塩害により躯体が劣化し、コンクリートの剥離等が発生している状況である。これら学校校舎等のうち、平成30年度は、開南小学校他2校の外壁面への塗装工事や屋上面への防水工事を行い、施設の塩害防止・長寿命化を図った。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	136,687	537,999	－		
	(b) 予算現額	143,101	565,465	－		
	(c) 増減額（b-a）	6,414	27,466	－		
	(d) 繰越額	―		31,066		
	A. 計（b+d）	143,101	565,465	31,066		
B. 執行済額		142,113	534,399	29,473		
うち交付金充当額		113,771	427,519	23,578		
次年度繰越額			31,066			
執行率（%）（B/A）		99.3%	94.5%	94.9%		

予算の状況の説明

・塩害による学校校舎等の劣化問題に対応するため、塩害防止・長寿命化対策として開南小学校他2校に外壁塗装工事等を実施した。
・次年度の速やかな事業実施に向けて、小学校及び中学校の実施設計に係る業務委託費4,312千円を増額した。また、工事費48,202千円を増額した。計画していた事業をすべて実施した。予算残については入札残等の不用額である。

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小学校校舎等外壁整備（工事）：1校	目　標	（1校 進捗率60%）	（1校 進捗率70%）	（　）	（　）
	実　績	1校 進捗率60%	1校 進捗率70%		
中学校校舎等外壁整備（工事）：2校	目　標	（0校 進捗率50%）	（2校 進捗率70%）	（　）	（　）
	実　績	0校 進捗率50%	2校 進捗率70%		

達成状況説明

・平成30年度は開南小学校他2校の塩害防止・長寿命化対策を実施し、概ね目標を達成することができた。
・工事においても学校活動に支障を与えないよう安全面に十分配慮した施工を行ったが、一部工事を繰り越すこととなった。
・業務委託（工事監理）においても工事の延長があったことから、一部の業務委託を繰り越すこととなった。
・工事及び業務委託の繰り越し分については、平成31年4月末に完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H29成果目標（指標）		基準値（　年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（　年度）
・教育委員会による点検を実施する。 外壁等の剥離件数：0件 外壁の亀裂等件数：0件	目　標	（　）	剥離：0件 （亀裂等：0件）	剥離：0件 （亀裂等：0件）	（　）	（　）
	実　績		剥離：0件 亀裂等：0件	剥離：0件 亀裂等：0件		
【参考指標】 ・H24～R3計画の進捗率：70%（小学校）	目　標	（　）	1校 （進捗率：60%）	1校 （進捗率：70%）	（　）	（　）
	実　績		1校 進捗率：60%	1校 進捗率：70%		
【参考指標】 ・H24～R3計画の進捗率：70%（中学校）	目　標	（　）	0校 （進捗率50%）	2校 （進捗率：70%）	（　）	（　）
	実　績		0校 進捗率50%	2校 進捗率：70%		

進捗状況説明

・当初予定していた小学校1校、中学校2校の外壁補修を施工することができた。建物のコンクリート劣化防止のため、塗装に耐久性の高い素材を採用することにより長寿命化を図るという目的を達成できた。
・老朽化した外壁の長寿命化を図る事業目的に従い、施工後の外壁状況を確認することで、事業目的の成果を確認することとした。
・教育委員会にて外壁塗装を実施した建物の外壁を確認したところ、剥離や亀裂等は確認されなかった。
・事業全体の執行率は小学校が70%、中学校が70%となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・塗装や防水工事の工程は、一般的に下地処理、下塗り、中塗り、仕上げと4工程必要だが、いずれも雨の影響を受けやすい。 ・平成30年度は台風等の影響を受けたが、大きな工程の遅れはなかった。 ・施工された施設の学校等と協力し、適切な維持保全を行っていく必要がある。	・天候不良による事業中断を考慮し、早期発注、早期着手を念頭に置く必要がある。 ・実際に施工された施設について、施工後の状況等を定期的に確認することで、適切な維持保全につなげる必要がある。

今後の取り組み方針

・効率的かつスムーズに事業を実施するため、工事等発注の時期などについても工夫ができるか検討していく。
・学校施設の外壁塗装工事により施設の塩害防止と長寿命化が図られたが、立地条件や気候条件等の厳しい環境は変わりないことから、建物の劣化の進行を抑え、施設の長寿命化を図るためにも定期的な点検・調査を行うことにより、適切な維持保全を進めるとともに、今後の予防保全への対応を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
563,872	563,872	451,097	112,775	

那覇市 563,872千円	委託料 4,351千円	アアキ前田（株） 4,351千円	実施設計：城岳小学校外1校外壁補修工事業務委託（設計）
	委託料 4,312千円	聖設計事務所 4,312千円	実施設計：安謝小学校外1校外壁補修工事業務委託（設計）
	委託料 2,937千円	（有）仲本設計 2,397千円	工事監理：開南小学校外2校外壁補修工事業務委託（監理）
	委託料 496千円	（有）仲本設計 496千円	工事監理：松城中学校外壁補修工事業務委託（監理）
	工事請負費 132,962千円	（株）沖縄総建・吉永・さつき塗装共同企業体 132,962千円	開南小学校 校舎外壁改修工事
	工事請負費 109,503千円	（有）ツネダ塗装工業・（株）野原建設・特殊建装工業（株）共同企業体 109,503千円	仲井真中学校 外壁改修工事（1工区）
	工事請負費 61,905千円	（株）新輝塗装店・アスク沖縄（株）共同企業体 61,905千円	仲井真中学校 外壁改修工事（2工区）
	工事請負費 94,623千円	（株）新建・（株）沖縄装美工業共同企業体 94,623千円	松城中学校 外壁改修工事（1工区）
	工事請負費 105,326千円	ムトウ建設（株）・（株）太閤建設共同企業体 105,326千円	松城中学校 外壁改修工事（2工区）
	工事請負費 47,456千円	恒和ペイント（株） 47,456千円	松城中学校 外壁改修工事（3工区）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は一般競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○委託・工事共に積算基準等に基づき積算を行っており、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、事業目的に即して必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-7	新文化芸術発信拠点施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	市民文化部　文化振興課	事業実施（予定）年度	平成24年度～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

市民、県民が質の高い文化芸術公演に触れる機会や文化芸術活動を行う場の確保を図るため、新文化芸術発信拠点施設を建設する。

効果発現年度　□当年度　■後年度（R3年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	821,206	1,356,853	0		
	(b) 予算現額	355,530	1,223,469	0		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 465,676	▲ 133,384	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	676,074		
	A. 計 (b+d)	355,530	1,223,469	676,074	0	0
B. 執行済額		352,646	547,395	673,226		
うち交付金充当額		282,117	437,916	538,580		
次年度繰越額			676,074			
執行率（%）（B/A）		99.2%	44.7%	99.6%	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明

建設工事の入札不調に伴い、H30年度の工事期間が短くなったこと等から、131,555千円を減額した。また、地下工事のための土留め掘削作業が地下埋設物等の影響により不測の日数を要したことや用地取得の手続きに不測の日数を要したことなどから、建設工事費及び用地取得に係る事業費676,074千円をR1年度に繰越した。

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
施設本体建設工事　一式 建設工事業務委託（工事監理）　一式	目　標	管理実施計画策定 土質調査 施設実施設計	施設本体建設工事 建設工事業務委託 （工事監理）		
	実　績	管理実施計画策定 土質調査 施設実施設計	施設本体建設工事　初年度完了 建設工事業務委託（工事監理）　初年度完了		
用地取得業務　一式	目　標	補償物件調査6件 解体工事監理 校舎解体工事	用地取得業務		
	実　績	補償物件調査1件 解体工事監理 校舎解体工事	用地取得業務　完了		

達成状況説明

H30年度は、建設工事の初年度であり、建築、電気、機械1工区、機械2工区、昇降機、舞台機構、舞台照明、舞台音響の8件の工事を契約し、工事の初年度分を完了した。また、用地取得については、取得が完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（R3年度）
用地取得業務　完了 施設本体建設工事　初年度完了 建設工事業務委託（工事監理）　初年度完了	目　標		補償物件調査6件 解体工事監理 校舎解体工事	用地取得業務　完了 施設本体建設工事　初年度完了 建設工事業務委託（工事監理）　初年度完了		
	実　績		補償物件調査6件 解体工事監理 校舎解体工事	用地取得業務　完了 施設本体建設工事　初年度完了 建設工事業務委託（工事監理）　初年度完了		
【R3成果目標】 年間利用者数：延べ20万人	目　標					延べ20万人
	実　績					

進捗状況説明

建設工事は、H30年度からR2年度までの工事となっており、繰越となったが計画していた初年度分を完了した。また、用地については、取得が完了したことで、外構工事の準備が可能となった。

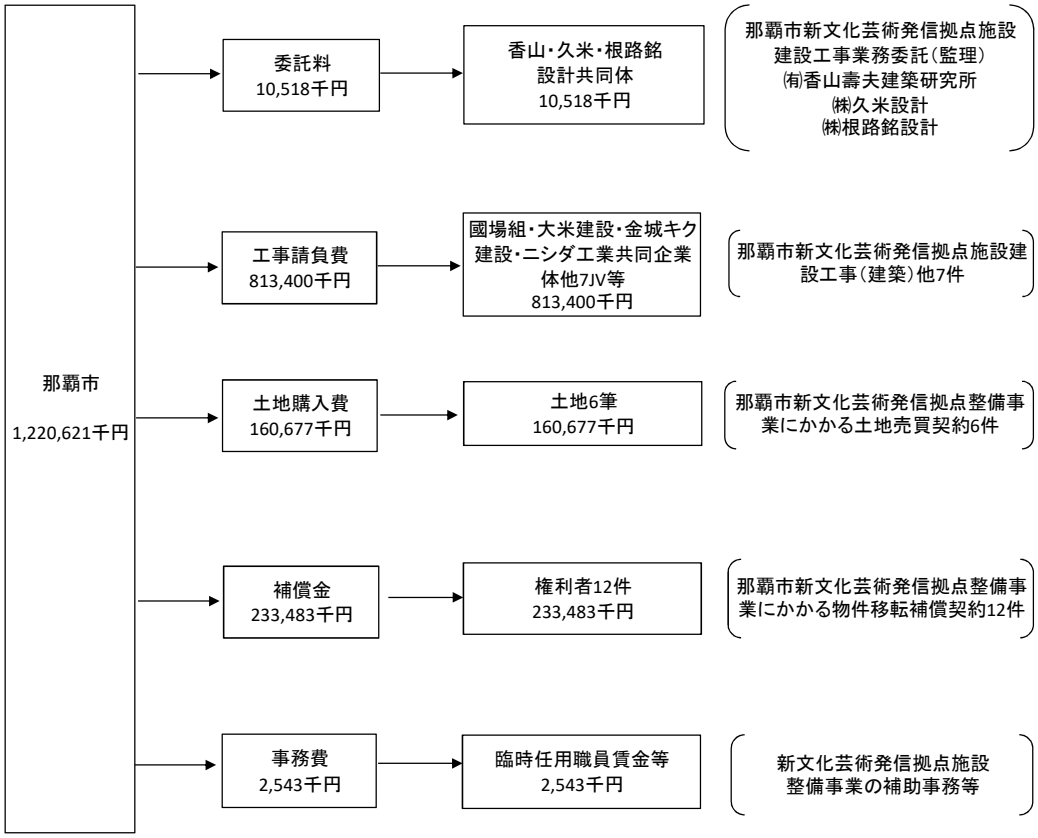
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・建設工事は、台風等の自然環境及び労務者の不足等の社会環境の影響を受けることから適切な進捗管理が必要。 ・用地取得業務は完了したが、今後、取得用地の外構工事の速やかな契約結準備が必要。	・建設工事については、現在のスケジュールでの完成を目指し、外部環境を注視し、速やかに対応するなどの適切な工程管理を行う必要がある。 ・用地取得は完了したが、今後、取得用地の外構工事を建設工事スケジュールでの完了を目指し、適切な執行管理を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・今後は、引き続き建設工事に取り組み、適切な工程管理を行い、完成に向けて取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,220,621	1,220,621	976,496	244,125	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事及び委託業者の選定は、一般競争入札、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定による随意契約で実施しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、積算基準等により積算し執行しており適正であったと考えている。 ○費目・使途についても、仕様書に即して事業目的を達成しており適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-11	文化芸術発信拠点施設整備事業（パレット）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	市民文化部　文化振興課	事業実施（予定）年度	平成24～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	幅広い文化芸術公演に触れる機会や文化芸術活動等の場を提供するため、パレット市民劇場において、施設整備と機能強化を図る。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（令和2年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	212,284	90,180			
	(b) 予算現額	188,355	90,180			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 23,929	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	90,180		
	A. 計 (b+d)	188,355	90,180	90,180	0	0
B. 執行済額		188,355	0	90,180		
うち交付金充当額		150,683	0	72,144		
次年度繰越額			90,180			
執行率（%）（B/A）		100.0%	0.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		工事内容の精査および見直しを行ったことにより、38,556千円を減額した。 また、施工条件の調整に不測の日数を要したことから、年度内での完了が困難となり、全額をR1年度に繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
・舞台機構機能強化工事実施	目　標	（　）	（工事1件実施）	（　）	（　）
	実　績		工事1件完了		
【参考】 ・舞台照明設備デジタル化工事実施 ・舞台音響システム強化工事実施 ・カメラシステム強化工事実施	目　標	（工事3件実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	工事3件完了			
達成状況説明	H29年度に舞台照明設備デジタル化工事、舞台音響システム強化工事、カメラシステム強化工事を完了し、H30年度に舞台機構機能強化工事を完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（R2年度）
・舞台機構機能強化工事完了	目　標	（　）	（　）	（工事1件実施）	（　）	（　）
	実　績			工事1件完了		
【参考】 ・舞台照明設備デジタル化工事実施 ・舞台音響システム強化工事実施 ・カメラシステム強化工事実施	目　標	（　）	（工事3件実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績		工事3件完了			
パレット市民劇場利用者数	目　標	（　）	（—）	（62,900人）	（　）	（61,000人）
	実　績		57,631人	50,624人		
進捗状況説明	・舞台機構機能強化工事については、R1年度に繰越して実施し、R1年度2月末で工事完了し、R1年度の3月から供用開始している。そのため、当初設定したR1年度の成果目標値（61,000人）は、R2年度の目標値としてスライドさせている。 ・なお、成果目標のパレット市民劇場利用者数については、平成29年度からの事業実施に係る目標として設定しており、目標達成状況としては、目標値62,900人に対し、実績値50,624人となり、約80.5%となっている。					

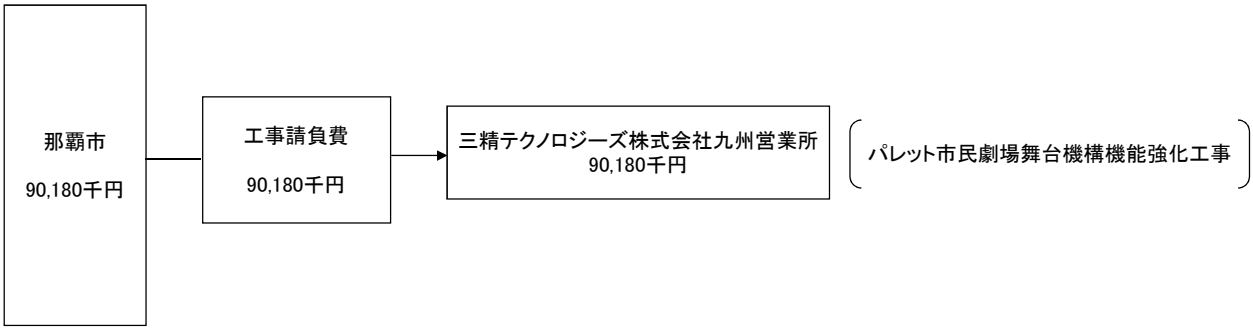
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（施設の機能強化工事） ・本事業の目的である舞台設備等の機能強化については完了した。今後は、施設維持に必要な改修工事を計画的に行っていく。 （施設利用者数） ・本事業による工事を予定していたことから、H30年度の1月～2月に休館期間を設けたことにより、目標値には届かなかった。今後も改修工事が必要な状況であるため、休館期間により利用者数の確保が厳しい状況が続くことが想定される。	（施設利用者数） ・工事等による休館期間を施設の閑散期に設定するなど、利用者数への影響が小さくなるよう工夫する。

今後の取り組み方針

（施設利用者数）
・工事による休館期間や感染症対策の影響により、今後も施設利用に制限がかかるなど厳しい状況が続くことが想定されるが、機能強化を果たした劇場設備の内容をホームページ等でアピールするなど、利用者の確保に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
90,180	90,180	72,144	18,036	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は随意契約であるが、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づき実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、工事内容の見直し等を行ったことで満額執行となり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途は、機能強化のための工事請負費であり、目的に即した必要なものであったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成30年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	12-1	地下壕対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-（4）-イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	まちなみ共創部　まちなみ整備課	事業実施（予定）年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-12
事業内容	現在も未対策のまま放置されている地下壕の対策工事を行うことで、陥没・落盤等の事故や地下壕への侵入による事故など、危険度軽減のための事業である。				
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和元年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	R2年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,140	12,600			
	(b) 予算現額	7,140	17,600			
	(c) 増減額 (b-a)	0	5,000	0	0	0
	(d) 繰越額	―		8,626		
	A. 計 (b+d)	7,140	17,600	8,626	0	0
B. 執行済額		7,140	8,974	8,448		
うち交付金充当額		5,712	7,179	6,758		
次年度繰越額			8,626			
執行率（%）（B/A）		100.0%	51.0%	97.9%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		地下壕の地主より、危険回避のための安全対策の要望があったことから、早急な埋戻等の対応ができるよう対策工法等の検討のための委託料を増額した。 また、応札者がなく不調となり、不調の結果を踏まえた設計変更に不測の日数を要したため、年度内での完了が困難となったため工事費にかかる8,625千円をH31年度に繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H30活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
地下壕対策工事（1箇所）の着手	目　標	（地下壕の埋戻の実施1箇所）	（地下壕の埋戻の実施1箇所）	（　）	（　）
	実　績	地下壕の埋戻の実施1箇所	地下壕の埋戻の実施1箇所		
次年度以降地下壕対策予定箇所（3箇所）の実施設計の着手	目　標	（対策工法案の検討及び実施設計2箇所）	（対策工法案の検討及び実施設計3箇所）	（　）	（　）
	実　績	対策工法案の検討及び実施設計1箇所	対策工法案の検討及び実施設計3箇所		
達成状況説明	・対策工事は予定通り1箇所埋戻工事を行った。 ・実施設計は予定通り3箇所対策工法案を検討した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H30成果目標（指標）		基準値（年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（年度）
地下壕対策工事（1箇所）の完了	目　標	（　）	（1箇所）	（1箇所）	（　）	（　）
	実　績		1箇所	1箇所		
次年度以降地下壕対策予定箇所（3箇所）の実施設計の着手	目　標	（　）	（2箇所）	（3箇所）	（　）	（　）
	実　績		1箇所	3箇所		
【R元成果目標】 対策を実施した地下壕での事故発生件数0件	目　標	（　）	（　）	（　）	（0件）	（　）
	実　績				0件	
進捗状況説明	・対策工事は流動化改良土による充填工法による空洞充填工事を1箇所行った。これまでの埋戻等対策工事実施箇所は13箇所となった。 ・実施設計は3箇所の対策工法の検討を行った。 したがって、事業の目的である地下壕の危険度軽減の目標は達成されるものである。					

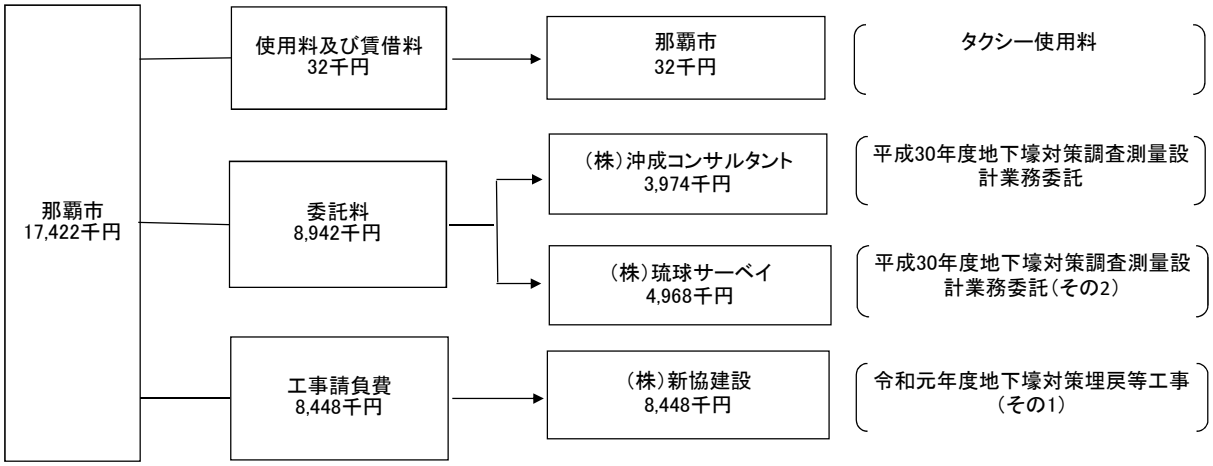
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地下壕の中でも自然洞窟では、当初想定していた形状と実情が異なる場合があり、実施設計時に測量等の数量が増加することがある。 ・拝所として昔から信仰の場になっているところもあり、土地所有者だけではなく、地域の利用者への事業説明等、調整に時間を要することがある。	・地下壕の数量増等に対応するため、簡易調査を入れる方法を検討したが、地形により簡易調査が出来ない場所や簡易調査に費用をかけるより、早めに実施設計を発注した方が適切であると判断したため、今後は、委託を早期に発注し、不足する追加経費増が発生した場合は、予算措置が可能となる期間を確保することとした。 ・関係者から理解を得られるよう、地下壕全ての空間を埋戻してしまうのではなく、入り口から見える範囲の空間は残すなど、信仰としての場の雰囲気も保つ工夫が必要である。

今後の取り組み方針

・委託や工事については、費用増が生じる場合を想定し、費用増に対する予算措置がとれるよう早期発注などを行う。
・拝所として利用されている地下壕には、土地所有者だけではなく利用者への丁寧な説明を重ね、事業の理解を得られるよう調整を行うとともに、工法検討の際には関係者の意見に配慮し対策を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,422	17,422	13,937	3,485	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入札により選定、工事業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第8号による随意契約をしており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については不用額は178千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのであり、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	